

令和元年度の三木市教育委員会の事務の
管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書

(概要版)

三木市教育委員会

目 次

| | | |
|-----|---------------------------------------|------|
| I | 教育委員会の活動状況 | P 1 |
| II | 教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額 | P 2 |
| III | 施策の点検・評価 | |
| 1 | 子ども一人一人の力を伸ばします | P 3 |
| 2 | 魅力ある学校園づくりを進めます | P 6 |
| 3 | 人と人との繋がりを大切にする生涯学習を進めます | P 9 |
| 4 | その他の取組 | P 12 |
| 5 | 市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行 している事務 | P 13 |
| IV | 外部評価者の評価 | P 13 |
| | [資料] 第2期三木市教育振興基本計画の数値目標(抜粋) | P 14 |

はじめに

令和元年度は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とする第2期三木市教育大綱を新たに策定しました。策定に当たっては、総合教育会議を計3回開催し、市長と教育委員会がそれぞれの立場から、三木市教育のあるべき姿について協議を行いました。

激しい社会の変化に主体的に向き合い、多様な価値観の中から新たな価値観を見出し、未来を切り拓いていく力が求められていることから、教育大綱の基本理念を「豊かな学びで未来を拓く」とし、この基本理念のもと、生涯にわたる豊かな学びを通じて、より充実した人生とよりよい社会を創造できる人材の育成をめざします。

教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会が1年間に行った施策を自ら振り返り、評価するものです。

この概要版は、令和元年度に重点的に取り組んだ施策についての点検・評価の概要をお示しするものです。

この点検・評価を通して、現在実施している施策や事務事業における成果と課題を整理するとともに、見直しと改善を行い、よりの確で効果的な施策を実施していくことで、三木市の教育の一層の充実と発展に資することができるよう今後も努力してまいります。

なお、各施策の詳細については、本編をご覧ください。

令和2年9月

三木市教育委員会

I 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員

(令和2年3月31日現在)

| 役職 | 氏名 | 委員任期 | 備考 |
|------------------|--------|--------------------------|-------------------------------------|
| 教育長 | 西本 則彦 | 平成30年4月1日～ 令和3年3月31日 | |
| 委員 (教育長職務代理者) | 石井 ひろ美 | 平成28年1月1日～ 令和5年12月31日 | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第5項に規定する保護者委員 |
| 委員 | 浦崎 秀一 | 平成28年10月1日～ 令和2年9月30日 | |
| 委員 | 大北 由美 | 平成30年4月1日～ 令和5年9月30日 | |
| 委員 | 實井 政治 | 平成30年10月1日～ 令和4年9月30日 | |

2 教育委員会の開催状況

定例会を12回、臨時会を7回開催し、議案18件を審議するとともに、協議事項16件を取り扱いました。

3 総合教育会議

総合教育会議は、第2期三木市教育大綱について3回、三木市の学校再編の方向性について1回開催しました。

第2期三木市教育大綱については、令和元年度が第1期三木市教育大綱の最終年度となることから、次の5年間で計画期間とした新大綱の策定に向け、協議を行いました。

学校再編については、三木市学校再編検討会議からの提言をもとに作成した「三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針(案)」の内容について確認しました。

4 教育委員等のその他の活動状況等

幼稚園、認定こども園、小学校、中学校及び特別支援学校の入園・入学式及び運動会等の学校園の事業に出席したほか、成人式、スポーツ賞表彰式などに出席しました。(卒業(園)式については、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、出席なし。)

さらに、研究発表会や計画訪問指導の際に学校を訪問し、教育現場の実態の把握に努めました。

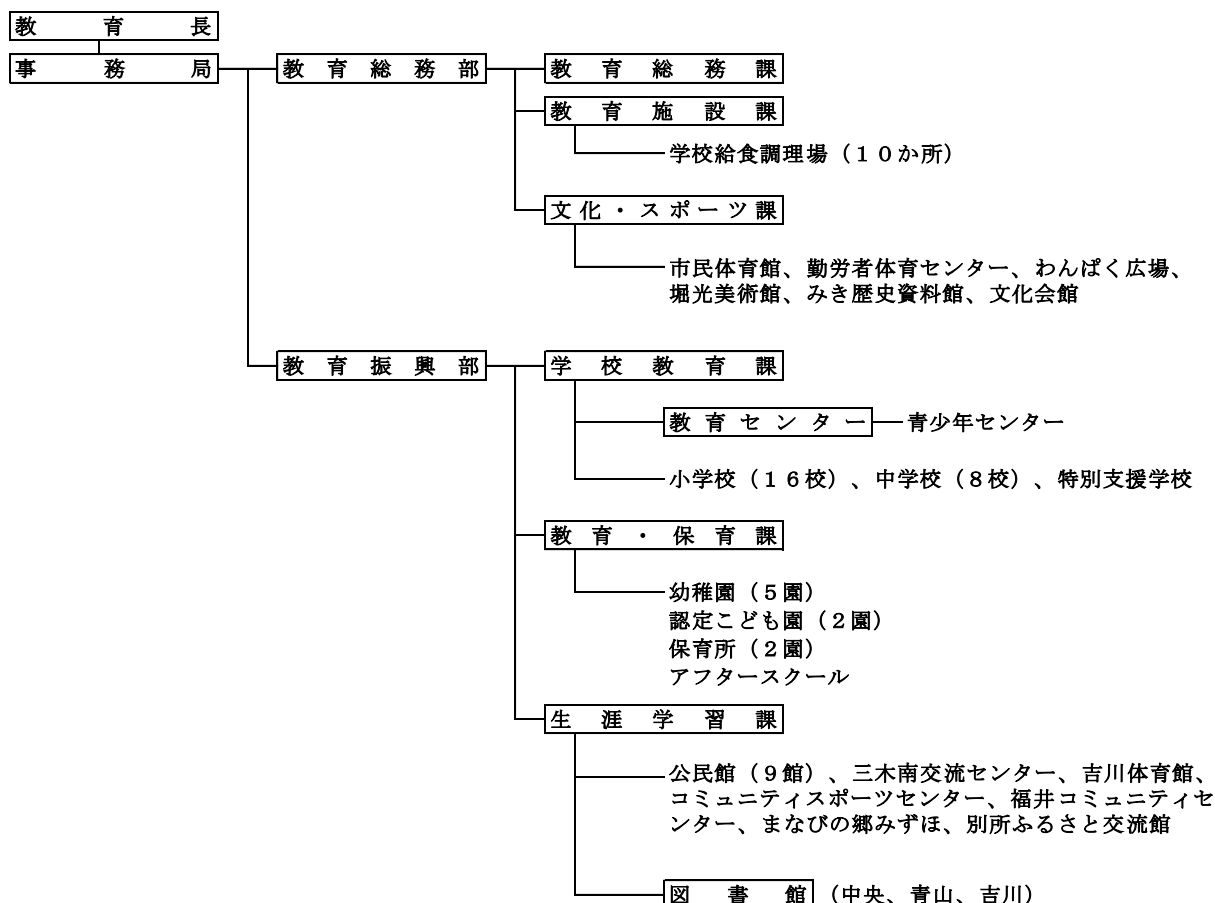
また、播磨東地区、兵庫県及び近畿市町村教育委員会連合会等が主催す

る研修会に積極的に参加し、今後の教育のあり方等について理解を深めることができました。

II 教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額

I 教育委員会事務局の組織及び職員数（関係施設を含む。）

(1) 教育委員会事務局組織図（平成31年4月1日現在）



(2) 教育委員会事務局の職員数

（各年度3月31日現在）

| 区分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 増減 |
|-------|-------|--------|-----|
| 正職員 | 107人 | 101人 | 6人 |
| 非常勤職員 | 312人 | 321人 | △9人 |
| 合計 | 419人 | 422人 | △3人 |

（教育長を含む。）

2 教育委員会事務局の主要業務

教育委員会事務局は、教育総務部と教育振興部の2部制で業務を進めています。

令和元年度、教育総務部には、教育総務課、教育施設課、文化・スポーツ課を、教育振興部には、学校教育課、教育・保育課、生涯学習課の

ほか、教育センター、図書館などの施設を配置しています。

教育委員会事務局の令和元年度の主な業務は、本編をご覧ください。

3 教育委員会所管業務の歳出決算見込額

(単位：円)

| 款 | 令和元年度 (決算見込額) | 平成30年度 (決算額) | 増減 |
|-----|------------------|-----------------|-------------|
| 教育費 | 2,891,182,438 | 2,817,409,144 | 73,773,294 |
| 民生費 | 3,018,259,610 | 2,937,104,626 | 81,154,984 |
| 総務費 | 98,089,525 | 42,969,937 | 55,119,588 |
| 合計 | 6,007,531,573 | 5,797,483,707 | 210,047,866 |

Ⅲ 施策の点検・評価

Ⅰ 子ども一人一人の力を伸ばします

◇ 取組の目的

就学前教育・保育の充実、そして一人一人の状況に応じた学力、心、体力の育成を通じて、子どもたちの個性と能力を伸ばすことを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

| |
|-----------------------|
| (1) 就学前教育・保育の推進 |
| (2) 「確かな学力」の向上 |
| (3) グローバル人材を育成する教育の推進 |
| (4) 「豊かな心」の育成 |
| (5) 「健やかな体」の育成 |
| (6) 特別支援教育の充実 |

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学前教育・保育の推進

ア 幼保一体化計画に基づく保育者の質の向上のための研修事業【教育・保育課】(補助執行)

平成30年度に改訂した「三木市就学前教育・保育共通カリキュラム」の内容を基に、市内の公立・民間就学前教育・保育施設の保育者を対象とした「保育者合同研修会」で具体的な活用方法等について共通理解を図り、すべての保育者が乳幼児の発達段階を意識し、更なる就学前教育・保育の質の向上をめざしています。

イ 特定教育・保育施設の評価及び監査【教育・保育課】（補助執行）

市内の特定教育・保育施設の教育・保育の質の向上及び運営の適正化を図るため、市独自に第三者による評価及び監査を実施しました。

ウ 保育事業【教育・保育課】（補助執行）

令和元年10月1日現在の「希望する園への入園を待つ児童数」は、平成30年度の同時期と比較すると11人増加し、106人となっています。

これは、保護者の就労や国の幼児教育・保育の無償化が昨年10月からスタートしたことにより、保育ニーズが高まり、入園を待つ児童数が増加したものと思われます。

今後においても入園児童数の受け入れができるよう、各園所に定員数の見直しなどの働きかけを行うとともに、保育者の確保に努め、入園を待つ児童数の解消に向けた取組を推進していきます。

(2) 「確かな学力」の向上

基礎学力の定着と教育の質の向上【学校教育課】

学力向上の方策として、三木市学力向上推進委員会を3回開催し、学力向上サポート事業推進校の取組や全国学力・学習状況調査結果について検証し、児童生徒の学力向上に向けた協議を行いました。令和元年度については、各教科の研修部会と連携した取組を行いました。研修部会で全国学力・学習状況調査において正答率が低かった問題について分析を行い、学力向上推進委員会では、研修部会の分析結果をもとにした資料を用いて、学力向上のための取組について協議しました。その結果、基礎学力の定着とともに、子どもたちの理解をさらに深めるため、個々に応じた学力の向上を図る必要があるのではないかといった提言がなされました。その提言を受け、自分の学習課題に応じた習熟度別学習プリントに取り組む「みっきいすてっぷ」を令和元年度から実施しているところです。

また、三木市教育委員会作成の「みきっ子家庭学習ガイド」やタブレットドリルの活用についても、家庭訪問や保護者会にて啓発を行うことにより、家庭と連携しながら定着を図りました。

(3) グローバル人材を育成する教育の推進

ア 話せる英語教育の推進【学校教育課】

令和2年度からの外国語の教科化に向け、小学校外国語科研修部会と連携し、評価方法や効果的な外国語の指導方法について研究を行いました。研修部において、簡単な英会話の例文集や英語の定着を図るための評価基準表が作成されました。令和2年度からこの基準表を活用し、より効果のある外国語指導を行っていきます。

イ 国際理解教育の充実【学校教育課】

日本とは異なった文化について地域の方に説明していただく活動や、留学などで来日されている学生にそれぞれの国を紹介していただくなどの交流を通じて、異文化や多様な価値観に触れる機会を設定しました。

また、外国にルーツを持つ子どもが母国語でのあいさつを紹介する活動を設定するなど、子ども同士の交流も進んでおり、異なった文化に対する理解が進んでいます。

(4) 「豊かな心」の育成

ア 生徒指導体制の確立【学校教育課】

小学校での問題行動の発生件数は減少しました。これは、個々の児童への細やかな対応や指導体制の強化、保護者や関係機関との連携など、未然防止や早期対応に向けた取組を進めた成果であると考えられます。

全国学力・学習状況調査において「自分には良いところがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、中学校については、令和2年度の数値目標を既に達成していますが、小中学校ともに前年度から減少しており、発達段階に応じた個別の教育相談を進めたり、学級活動、学校行事を工夫したりするなど、自己肯定感を高める取組を継続して進める必要があります。

イ 同和教育を中心に据えた人権教育の推進【学校教育課】

児童生徒の人権意識の向上を図るため、各校において、人権教育推進計画を作成し、全教育活動を通して、同和教育を中心に据えた人権教育を推進しました。小学校、中学校それぞれ学年ごとに共通教材を指定するとともに、同和教育カリキュラムを作成し、系統的に同和教育の指導を行いました。

(5) 「健やかな体」の育成

ア 各学校園での体力向上に向けた取組の推進【学校教育課、教育・保育課】

小学校では、体育の授業での取組だけでなく、学校行事の運動会等の練習の他、教育活動全体を通じて、体育・スポーツ活動を継続的に取り入れ、運動習慣を定着させることで、体力・運動能力の向上に繋がるよう取り組んでいます。

中学校では、年2回（春、秋）、体力テストを実施し、体力の向上を実感させるとともに、結果を分析することで、継続的に体力・運動能力の向上に繋がるよう取り組んでいます。

しかしながら、全国体力調査の結果、三木市の児童生徒の体力は、全国平均に至っていない種目もあるため、課題のある筋力や柔軟性などを高める運動を授業に取り入れるなど、体力向上に向けた取組を継続していきます。

今後も、体力・運動能力、運動習慣等調査結果をもとに、三木市の傾向を分析し、今後の活動にいかしていきます。

イ 学校給食の充実【教育施設課】

1月の給食週間では、「食でオリンピック 2020」というテーマで、これまでのオリンピックの開催国の料理を提供し、料理を通じてオリンピックについて興味を持つよう工夫しました。

今後も、食育の生きた教材としての学校給食の充実に努め、給食に使用する地元産食材を啓発し、特産物についての理解や郷土愛を高めていきます。

(6) 特別支援教育の充実

ア 学校園・各機関との連携を踏まえた特別支援教育の推進【教育センター】

就学前教育・保育施設と小学校間及び小中学校間において、継続した支援が子どもの実態や特性に応じて適切に行えるように、子どもの実態把握や具体的な支援のあり方等について、保護者及び学校園の相談に応じました。

イ 特別支援教育指導補助員の配置【学校教育課】

発達障害や様々な障がいを持つ児童生徒の学習支援、生活支援のために、特別支援教育指導補助員を小学校13校に38人、中学校6校に11人配置し、子どもたちの個々のニーズに応じた支援を行いました。

特別支援教育指導補助員による個別の支援を要する児童生徒は増加しており、今後、更なる支援の充実のため、適切な配置を図っていきます。

ウ 特別支援教育研修会【学校教育課、教育・保育課】

特別支援教育指導補助員と教職員とが情報交換を行い、児童生徒についての共通理解を図り、より効果的な支援ができるように、打合せの時間の確保に努めています。

2 魅力ある学校園づくりを進めます

◇ 取組の目的

教職員の資質の向上や学校園情報の発信、また、安全・安心な教育環境の整備を通じて、地域社会の中でより積極的な役割を果たしていける学校園づくりを進めます。

◇ 取組の項目

| |
|--------------------|
| (1) 学校の組織力の向上 |
| (2) 教職員の資質及び指導力の向上 |
| (3) 開かれた学校園づくりの推進 |
| (4) 安全・安心な教育環境の整備 |
| (5) 学校の教育環境の充実と検討 |

◇ 主な点検・評価項目

(1) 学校の組織力の向上

ア 学校の組織力の向上【学校教育課】

組織のリーダーを育成するため、元市内小学校長を講師として招聘し、講座を開催しました。

また、人事評価・育成システムに基づく面談の機会等を活用し、管理職との対話を通じて、個々の職務上の課題や学校内での役割を認識した上で、自ら重点目標を設定し、主体的に業務に取り組むことができるよう共働体制の確立を指示しました。さらに、管理職による適切な評価及び、指導・助言により、教職員の能力開発と学校組織の活性化を図りました。

イ 教職員の勤務時間適正化対策【学校教育課】

令和元年度は、市内全校の教頭もしくは事務職員の出席による「三木市学校業務改善推進委員会」を開催し、事務職員の加配を受けた学校業務改善推進校の取組を周知しました。また、各学校での取組の情報交換を行い、市内各校の業務改善が進むよう、効果的かつ持続することが可能な取組について協議を行いました。

(2) 教職員の資質及び指導力の向上

専門研修講座・校務システム研修の開催【教育センター】

教育センター専門研修講座の教員1人当たりの参加回数は、平成30年度を上回り目標の3回に到達しました。これは、これまでの各校へのアンケート調査に加え、各校でのOJTの取組を聞き取りし、その内容からさらに必要と思われる講座を開催したことで、参加回数の増加に繋がったものと考えられます。令和2年度の研修については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来どおりの開催が困難となることが予想されますが、学校ごとの出前研修やオンラインでの研修等、学校園の研修の希望や教職員のニーズに応じた研修を企画していきます。

(3) 開かれた学校園づくりの推進

学校関係者評価【学校教育課】

市内の全学校園で、学校関係者評価委員が学校の教育活動の観察を通じて、学校の自己評価結果を検証し、評価を行うことで、学校運営の改善に役立てました。

令和元年度に実施した先進校視察において、コミュニティ・スクールの活動や運営について情報を得たほか、「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加し、文部科学省の方向性や全国にある実施校の運営方針などを学びました。

(4) 安全・安心な教育環境の整備

ア 安全・安心な学校園をめざして【学校教育課、教育総務課】

三木市教職員危機管理ハンドブックを活用した研修等を行うことで、教職員の危機管理意識を高め、組織的に安全・安心な学校園づくりを進めました。

さらに、学校校区を7ブロックに別け、学校安全指導員（警察OB）を配置し、学校園内及び学校園区内における園児、児童生徒及び教職員等の安全確保を図りました。

イ 学校施設等の整備の推進【教育施設課】

防犯対策として敷地内への侵入防止や犯罪発生を抑止し、児童・生徒・園児等の安全確保のため、各施設に防犯カメラを設置しました。今後も児童・生徒・園児等が安心して過ごすことができるよう教育環境の向上に努めます。

また、平田小学校において、校舎にエレベータやスロープを設置し、学校活動で必要となる教育環境の整備を図りました。

(5) 学校の教育環境の充実と検討

学校の適正規模・配置の検討【学校教育課】

学校再編検討会議を開催し、三木市の学校再編についての提言書が策定されました。喫緊の課題とされる学校の統合や小中一貫教育を行う学校への再編について協議を重ね、「三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針」を策定しました。

その後、志染・緑が丘中学校区と吉川の小学校区において統合準備委員会を立ち上げ、それぞれ3回の会議を開催しました。令和2年度には、星陽・三木中学校区を加えた計3つの統合校区において、円滑な統合に向けた準備を進めます。

3 人と人との繋がりを大切にする生涯学習を進めます

◇ 取組の目的

地域や家庭教育の支援、人権教育の推進、市の特色を生かした文化・スポーツ振興事業を通じて、すべての人が尊重され、心豊かに学び続けることのできる社会づくりを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

| |
|--------------------------|
| (1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進 |
| (2) 地域・家庭の教育力の向上 |
| (3) 学びたいときに学べる環境の整備 |
| (4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化 |
| (5) 市民ニーズに対応した図書館の充実 |
| (6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成 |
| (7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興 |

◇ 主な点検・評価項目

(1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進

市民研修の充実【人権推進課】

住民学習の参加人数は4,199人で、昨年度とほぼ同数でした。若い世代の参加者が少なくなる傾向は依然としてあるため、開催方法や開催時期等について一層工夫することで、若い世代をはじめ幅広い年代に参加いただく機会を作り、住民学習の充実に努めます。

(2) 地域・家庭の教育力の向上

ア 家庭教育推進事業【生涯学習課】

家庭の教育力を高めるために、公民館では、家庭の役割についての認識を深めるなど、子どもの健全育成を支援しました。

イ 人の目の垣根隊【青少年センター】

児童生徒の安全安心を確保するため、登下校時の見守りを実施することで、地域の子どもは地域で守り育てるという機運や地域の連帯感と教育力を高めました。

今後は、小規模校や学校再編による統合校区の人の目の垣根隊活動についても、十分な検討が必要となってきます。

実働会員の減少や高齢化等の課題はありますが、人の目の垣根隊の意識向上や子どもたちの安全や防犯に向けた取組を推進します。

ウ 青少年補導委員活動【青少年センター】

青少年の健全育成及び非行防止等のために、補導委員による街頭補導活動、青少年を取り巻く有害な環境の是正に関する啓発活動を実施しました。また、パトロール活動を行うことにより、防犯上の抑止力にもなりました。

(3) 学びたいときに学べる環境の整備

高齢者大学、同大学院の運営【生涯学習課】

ライフサイクルに応じた生きがいの創造と、地域活動を推進する指導者や協力者の養成のため、高齢者大学、高齢者大学大学院を開校し、「学び」や「交流」により、高齢者の生活がより豊かで、充実したものとなりました。

実践の一例として、地域資源をいかしたまちづくりを研究し、報告書をまとめたグループが、卒業後も三木市のまちづくりワークショップの一員に加わるなどの活躍をしています。

(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化

ア 公民館における学習機会の充実【生涯学習課】

市内10公民館において、乳幼児学級、女性セミナー、高齢者教室など、ライフステージに応じた生涯学習講座を開催しました。

生涯学習講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月から開催を自粛したことにより参加人数が減少しましたが、今後もライフステージに添った学習内容の機会を提供していきます。さらに、青年層や就労層などの若い世代が気軽に参加できる講座などニーズのある講座について検討します。

イ みっきい生涯学習講師団【生涯学習課】

生涯学習及び地域の人材活用を推進するために、みっきい生涯学習講師団事業を実施しました。

この取組により、参加者の知識や教養が深まるとともに、交流の輪が広がりました。また、指導者にとっては、学んだことを社会でいかす機会となり、学びへの意欲の向上に繋がりました。

(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実

乳幼児から高齢者まですべての市民が便利に利用できる図書館の運営【図書館】

学校への支援として、三木市教育系イントラネットを利用し、児童書リストの配信や、メールでの団体貸出申込を可能にするなどに取り組んだことにより、学校への団体貸出冊数が前年度よりも1.8倍増加しました。

利用者数及び個人貸出冊数については、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による利用制限の影響もありますが、近年は毎年減少傾向にあるため、今後は感染防止対策を十分に講じた上で、インターネット等による予約システムの活用をさらに推進し、利用者の増加に努めていきます。

(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成

ア 歴史・美術の杜構想の推進【文化・スポーツ課】

みき歴史資料館を「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」の中核施設として、まちのにぎわいづくりや地域の活性化に取り組みました。

イ 文化・芸術団体の活動支援【文化・スポーツ課】

三木市の文化芸術の振興と普及を図るため、5人の優秀な文化芸術活動に対し、文化芸術奨励賞を、全国規模のコンクールで優秀な成績を収められた1人の方に文化芸術特別賞を授与しました。

(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

ア 広く市民が参加できるニュースポーツ大会及び市内外の交流事業の実施【文化・スポーツ課】

子どもや高齢者、様々な事情によりスポーツをしていない人も気軽に体を動かし、積極的にスポーツを楽しんでもらえるよう、スポーツ推進委員とともに、ふれあいスポーツデー、スナッグゴルフ大会等を開催しました。

イ ゴールデンスポーツイヤーズに向けた事業の推進【文化・スポーツ課】

オリンピック、パラリンピックについては、東京オリンピックフランス陸上競技代表チーム、ネパールパラリンピックテコンドー代表チームが、それぞれ事前合宿を行いました。

同合宿では、地域住民とのスポーツ交流だけでなく、日本文化の紹介も行われるなど笑顔あふれる国際交流を実施することができました。

ワールドマスタースゲームズ2021関西については、ワールドマスタースゲームズ2021関西三木市テニス競技準備委員会を設立し、本大会の啓発を目的とした1000日前イベントとして、市内小学生を対象とした「キッズ・ジュニアテニス塾」を開催しました。

4 その他の取組

◇ 取組の目的

学校教育事業を補助する諸活動を通じて、子どもたちの教育のより一層の充実を図ることを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

| |
|------------------------|
| (1) 就学援助 |
| (2) 通学（園）支援事業 |
| (3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業 |
| (4) 奨学金給付事業 |

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学援助【学校教育課】

経済的な理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学に係る費用の一部を援助することにより、義務教育の円滑な実施に努めました。

(2) 通学（園）支援事業【教育施設課、教育・保育課】

学校園の統廃合により、遠距離通学（園）することとなった園児児童生徒及び三木特別支援学校に通学する児童生徒を対象に、スクールバスの運行又は通学補助金を交付し、通学支援を行いました。

(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業【教育施設課】

自転車の利用者に自転車損害賠償保険の加入が義務付けられたことにより、中学校の自転車通学者に対し自転車通学者保険補助金を交付し、対象者の保護者負担を軽減することにより、全ての対象者の保険加入を促進しました。

(4) 奨学金給付事業【教育総務課】

経済的理由で高校、大学、専修学校等の学資の支弁が困難な世帯に対し、奨学資金を給付し、教育の振興を図りました。大学生や専修学校生に対して返済の必要がない給付型奨学金を実施している市町はほとんどない中、子供たちが夢に向かって等しく勉学に励むことができる環境を支援するため、令和2年度も本事業を継続します。

5 市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行している事務

◇ 取組項目及びその成果と課題

放課後児童健全育成（アフタースクール）事業【教育・保育課】

昼間保護者等が家庭にいない小学校に就学している児童を対象に、児童の保護及び遊びを通して健全な育成を図るために、放課後児童健全育成（アフタースクール）事業の実施計画、施設整備、運営指導、運営管理、従事職員等の労務管理、調査・研究・統計、相談業務及び庶務業務を行いました。

IV 外部評価者の評価

兵庫教育大学教職大学院元教授の廣岡徹氏と神戸大学准教授の山下晃一氏に、学識者評価を賜りました。評価の詳細については、本編をご覧ください。

〔資料〕第2期三木市教育振興基本計画の主な数値目標

*R2年度の目標値は、計画策定時（H28年度）に設定した数値

| 目標指標 | | 平成29年度 (実績) | 平成30年度 (実績) | 令和元年度 (実績) | 令和2年度 (目標値) |
|---|----------------|---------------------|---------------------|----------------------|----------------|
| 希望する園への入園を待つ児童数 | | 96人 (H29.10.1現在) | 95人 (H30.10.1現在) | 106人 (R01.10.1現在) | 0人 |
| 学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、小学生で1時間以上、中学生で2時間以上勉強している子どもの割合 | 1時間以上勉強している小学生 | 61.8% | 71.5% | 72.3% | 70.0% |
| | 2時間以上勉強している中学生 | 34.7% | 34.9% | 38.4% | 50.0% |
| 全国学力調査の全国平均を100とした時の指数 | 小学校 | 94 | 94 | 91 | 100 |
| | 中学校 | 103 | 103 | 97 | 104 |
| 英検を受験する生徒の割合 (中学生の英語に対する興味、関心の度合) | | 16.0% | 17.3% | 17.4% | 30.0% |
| 全国体力調査の全国平均を100とした場合の指数 | 小学校男子 | 96.5 | 97.1 | 99.7 | 100.0 |
| | 小学校女子 | 96.9 | 93.8 | 99.6 | 100.0 |
| | 中学校男子 | 92.8 | 91.4 | 91.9 | 100.0 |
| | 中学校女子 | 95.3 | 92.8 | 94.9 | 100.0 |
| 学校園評価アンケートにおける児童生徒のアンケートの結果 | 学校に行くのが楽しい | 87.1% | 86.7% | 86.2% | 90% |
| | 授業がよくわかる | 90.0% | 89.8% | 90.3% | 92% |
| | 先生が話しかけてくれる | 85.2% | 84.4% | 85.2% | 86% |
| インターネット会議システム活用学校 | | 2校 | 3校 | 3校 | 8校 |
| 合同学習実施校 | 小学校 | 5校 | 6校 | 7校 | 7校 |
| | 中学校 | 1校 | 1校 | 1校 | 2校 |
| 住民学習参加人数 | | 4,192人 | 4,198人 | 4,199人 | 4,900人 |
| 人の目の垣根隊会員数 | | 736人 | 774人 | 771人 | 830人 |